

平成22年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	適応指導教室				開始年度	平成6年度		
基本目標	教育内容の充実				終了年度			
担当課(局)	教育総務課	担当係	教育総務係	記入者	濱本 生代		評価者	黒水 日出夫
21年度決算	957	千円	22年度予算	967	千円	事業の実施方法	<input type="checkbox"/> 補助	<input checked="" type="checkbox"/> 単独
21年度人件費	73 千円		22年度人件費	72 千円		事業従事者数	0.01 人	0.01 人

事業の目的	学校で行っている不登校児童生徒への指導の支援及び当該児童生徒が登校できるよう指導、支援を行う。
事業の内容	不登校など学校生活への適応に問題を抱える児童生徒について、学校及び保護者、関係機関と連携を図りながら、教育相談や適応指導、学習指導を行う。

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	# 通級児童生徒数	不登校状態にある子どもを、まずは適応指導教室に通級できるよう働きかけた。
	2 改善が図られた児童生徒数	学習指導や相談活動を通じ、学校へ登校できるよう支援した。
	3	
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	# 指導日数	学校への登校が難しい児童生徒に学習指導、適応指導を行った。
	2 相談活動従事件数	通級児童生徒の保護者や体験通級の保護者の相談に従事した。
	3	

◎達成状況

		指標名	単位	20年度	21年度	22年度
成果指標	通級児童生徒数	目標値	人			6
		実績値		5	9	
		達成率		%	#DIV/0!	#DIV/0!
	改善が図られた児童生徒数	目標値	人			6
		実績値			6	
		達成率		%	#DIV/0!	#DIV/0!
0	目標値					
	実績値					
	達成率		%	#DIV/0!	#DIV/0!	
活動指標	指導日数	目標値	日			174
		実績値		148	148	
		達成率		%	#DIV/0!	#DIV/0!
	相談活動従事件数	目標値	件			24
		実績値		15	20	
		達成率		%	#DIV/0!	#DIV/0!
0	目標値					
	実績値					
	達成率		%	#DIV/0!	#DIV/0!	

◎事務事業の評価

妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか ◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか ◎事業廃止による影響があるのか	義務教育期間の児童生徒の就学に関する事業であるので、町で行う事業である。学校での指導が第一であるが、学校生活への適応に問題を抱える子どもを支援する場合はほかになく、事業廃止はそれらの子どもの行き場所をなくすことになる。
有効性	◎目標に対して成果は得られているか ◎成果向上のための改善余地があるか	適応指導教室での指導により自信をつけて学校への登校が可能になった。21年度は、委託事業との併用により、適応指導教室への通級から在籍校への通学への指導段階で、学校に人員を配置することができ、きめ細やかな対応が可能であった。通級する児童生徒の人数や状況により異なるが、現在の1人体制では指導に限界がある。
効率性	◎活動量の効果は上がっているか ◎経費や時間の削減余地があるか	学校との連携を図りながら、登校が可能になった。通級をする子どもの数によるが、現在の1人体制では個に応じた対応に物理的な限界がある。
協働性	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	子どもたちがそれぞれに抱える事情や問題が複雑であり、高い専門性や知識が必要な場合があるが、慎重な対応が必要なことから協働の可能性は低い。

事務事業名	適応指導教室	担当課(局)	教育総務課
-------	--------	--------	-------

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	第一目標に、不登校の生徒を解消するという点で、少人数ではあるが大切な事業である。 今後は、不登校解消と同時に生徒の悩み事相談にも積極的に取り組んでもらいたい。	今後の方向性					
			事業の方向性	拡充				
			現状維持			○		
			縮小					
			廃止					
			廃止	縮小	現状維持	拡充		
			コスト					

事務事業評価委員会 評価欄	事業	現状維持	◎生徒の悩み事は非常に大きな問題である。積極的に取り組んでほしい。
	コスト	現状維持	